



## 平和集会



慰霊の日前日 6/22(水)に 2022 年度平和集会を行いました。

今回は、私の恩師で元白梅学徒隊の武村豊先生(93歳)に戦争の時の実体験を教え子ということでお話していただきました。武村先生は、県立第二高等女学校に入学し楽しい学校生活を過ごしていたのですが、戦争に巻き込まれ負傷兵の看護に動員されました。野戦病院で看病を続け、壕内での悲惨な状況、解散で砲弾が飛び交う戦場に投げ出されたこと等の辛い体験のお話でした。限られた時間でお話を全て聴くことはできませんでしたが、戦争体験者の生の声を聴くことは大変貴重です。

今から77年前 私達が住んでいるこの沖縄で戦争がありました。地上戦で、鉄の暴風と呼ばれるほど たくさんの砲弾が飛び交い 多くの人・物が傷つき、亡くなりました。武村豊先生のお話のように、けがや病気の兵隊のお世話をしたくても薬や食べ物もなく治療もできませんでした。戦争で 独りぼっちになり、家族や友達を失った人、傷ついた人がたくさんいます。戦争になると 食べ物がなくなりお腹が空いて、また、爆弾で大怪我や病気になって亡くなってしまいます。空襲で住む家や学校もなくなり、見つからないように暗い洞窟などに暑くても我慢し隠れなければなりません。壕の中は、血やうみ、排泄物などで ものすごい臭いだったそうです。／【6/21沖縄夕凧】

戦争は、国と国との大きなけんかです。戦争を起こすのは 人間です。しかし、それ以上に戦争をゆるさない努力のできるのも私達です。私達は、今 住んでいる沖縄での戦争について知らなければなりません。戦争と平和について学ばなければなりません。平和の礎には、今年 沖縄戦でなくなった241,686名(R4年6月現在)の方の

名前が刻まれています。沖縄では、当時の四人に一人は亡くなりました。

そして、戦争が終わっても心も身体も傷ついて苦しい思いがずっと続きます。武村豊先生も家族や友人を亡くした悲惨な体験を伝えることは辛く、かなり時間が経ってから私達にお話しています。

戦争は二度とあってはなりません。命はよみがえりません。武村豊先生のように戦争で生き残った人の命が私達に受け継がれています。

「命(ぬちどう)宝」命は宝!!  
大切な命を失わないようにお互いに命を大切にし 平和に生きている今を感謝し世界の人々と仲良く生活できる平和な社会をつくっていくことを誓いましょう。これからも、

6月23日の慰霊の日では、沖縄戦で亡くなった方々のご冥福を祈り、二度と戦争がおこらないよう、平和な世界が続くよう 心をこめて黙禱し、沖縄戦を振り返る大事な日として過ごしてほしいと思います。武村豊先生、ご来校誠にありがとうございました。

## 学生生活 戦渦に奪われ

### 記憶を重ねて 沖縄戦とウクライナ侵攻

③

### 武村豊さん(93)



「一番大事な命、とにかくそれを生かしたい」と話す武村豊さん(93歳、那覇市)

元白梅学徒隊の武村豊さん(93) 那覇市は戦争で命を奪われた家族や友人たちの無念さを感じ、今でも胸が痛む。沖縄戦では、16歳の時に負傷兵の看護に動員された。友達と楽しい学校生活を送るはずだった時間も奪われた。同じようなことを子どもたちには体験させたくない。県内の学校などで「一番大事な命は

命」と伝える。武村さんは1941年、将来への希望にあふれ、那覇市の県立第一高等女学校(二高女)に入学した。学校では恋愛物の小説を友達と読み回し、楽器の音色や合唱の音が響く。中庭には季節の花が咲いていた。しかし、平穏な生活は、次第に戦時体制に巻き込まれていく。授業はほとんどなく、竹やり訓練や軍の掃蕩などに明け暮れ、皇民化教育をたたき込まれた。44年の10・10空襲は、自宅も二高女も焼き尽くされた。家族で疎開を勧められた

が、「壕は誰が掘るの。私は残ると断り、母も姉も疎開を取りやめた。翌年3月末、艦砲射撃が始まり、八重瀬町の野戦病院に動員された。戦争に巻き込まれた青春時代。負傷兵の傷口にはうじが湧き、ピンセットで取った。手術で切断された手足は壕の外に捨てられた。壕内は血やうみ、排せつ物でものすごく臭いだった。戦況が悪化し、解散命令が出され、壕を出ると、どこへ行っても砲弾が飛び交う。歩けず石垣に寄りかかって「水を下さい」と頼む兵隊。亡くなった母親の背中で泣いていた



家族写真。県立第二高等女学校に入学する1941年ごろの(前列右から)武村豊さん、母カメさん、三女の文さん。(武村豊さん提供)

## 命の大切さ 語り伝える

ロシアの軍事侵攻が続くウクライナでは日々、犠牲者が増え続けている。学校にはロケット弾が撃ち込まれ、子どもや若者たちも家族や友達と離れて国内外に避難。ウクライナから沖縄に避難してきた大学生や高校生もいる。楽しい学校生活から一転、戦渦に巻き込まれた自身の体験を思い起す。「希望を燃えている子どもたちを沈ませてはいけない」と講話の際、子どもたちに必ず語りかける言葉がある。「あなたにとって大切なものは何ですか。二度と戦をしないため、一人一人に考えてほしい」と願っている。(社会部・菅銘悠)

る赤ちゃん。同級生が砲弾に倒れるのを見た。かわいそうだったとは思っても助ける力もなかった。「死んで楽になりたい。座り込んでいた時、「生きなさい」と母の声がかえった気がした。家族に会いたい。水が欲しい。その一心で歩き出すとキーザバナタなど着き、水をたらふく飲んだ。その後捕虜になった。戦後は、母カメさんと姉文さんの遺骨を獲したが、どこでどのように亡くなったのか分からない。

「死んで楽になりたい。座り込んでいた時、「生きなさい」と母の声がかえった気がした。家族に会いたい。水が欲しい。その一心で歩き出すとキーザバナタなど着き、水をたらふく飲んだ。その後捕虜になった。戦後は、母カメさんと姉文さんの遺骨を獲したが、どこでどのように亡くなったのか分からない。」

# 嶺っ子便り

## 7月



令和4年7月11日  
那覇市立石嶺小学校  
校長 砂川 深雪



セミの鳴き声に夏本番を感じます。嶺っ子は、虫取りや2年ぶりの水泳学習を心待ちに学校生活を過ごしています。7/21から子ども達を楽しみにしている夏休み!! 夏休みをより充実したものにするため、計画立てや過ごし方をご家族で話し合われることを願っています。学校と家庭・地域が歩調をそろえて、「活動と休養」のバランスのとれた、しかも、子ども達にとって安全で楽しく、自分を向上させる好ましい夏休みにしていきたいと思います。また、熱中症対策と新型コロナウイルス予防の健康・生活安全に気をつけてくださるよう引き続きご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 非行防止教室 7/1(金)2~4校時、

低学年は、「万引き」や「いじめ」の講話。  
中学年は、「ケータイやスマホとインターネット」  
高学年は、「飲酒・タバコ、体を狂わせる薬物」  
についての書を学びました。子供のネット利用で、  
ネット上のいじめ、詐欺や性犯罪などの被害、ゲ  
ーム等の高額課金、長時間の依存的な利用等の問  
題が起きています。こうした問題を回避するには、  
フィルタリング等の安全対策をとることと、子供  
たちの判断能力を育てることの両方が必要です。  
「ゲーム障害」も病気として認定されています。

### 那覇市交通安全功労者表彰

6/30(木)パレット市民劇場にて、那覇市長より表彰された受賞者【個人・団体】は、

- ・名嘉真朝春…山城そば店近く
- ・三枝君枝…県総合福祉センター横
- ・座覇永徳…石嶺小正門前
- ・知念和美…石嶺小正門前
- ・琉球銀行石嶺支店…まさひろ・ファミリーマート近く交差点
- ・沖縄銀行石嶺支店…ゆいレール石嶺駅交差点



上記の方々、朝の立哨・街頭活動を天候に左右されることなく実施し児童生徒や地域の歩行者の安全確保に尽力されています。大変心強いです。長年、嶺っ子や地域の交通事故防止に積極的に関わってくださり、このたび推薦させていただきました。日々の交通安全に心より感謝申し上げます。

### PTA作業

6/25(土)8:15~1年・3年・5年の保護者と職員、野球部の6年生が草刈り作業を行いました。とくに、プール近くの木々は、かなり伸びていたので伐採が必要でした。日頃、手が届かない箇所がきれいになり、教育環境を整えることができました。暑い中ありがとうございました。



今年度の夏休みは、

## 夏休み

7/21(木)~8/25(木)の約1ヵ月です。

★7/22(金)~7/27(水)の午後は、個人面談があります。日時は担任からの文書で確認ください。

### いしんみラジオ体操



★第1回 7/23(土)

★第2回 7/30(土) 開始時刻は 3回とも

★第3回 8/6(土) 6時30分~開場 6:15

石嶺小学校サブグラウンドで行います。雨・荒天中止

※嶺っ子は、必ず大人の人と来校してください。

◇「ラジオ体操カード」を持っている子は持参。

◇体操終了後はミニイベントも用意しています。

### いしんみ防災勉強会

7/26(火)の

19~21時 ZOOM 開催。ZOOM 参加も可。

◇『避難所としての「学校」誰もが安心して避難生活を送るために』 講師: 乗原英文 氏

問い合わせ: 石嶺小学校まち協こども育成部: 宮道

### 熟議…第4回(最終回)

★7/30(土)

13時30分~(13:00開場) 新体育館にて

コーディネーター: 日渡円 氏 嶺っ子も参加予定

問い合わせ先: 石嶺小【Tel 098-917-3329】

### 平和集会

別紙詳細がある 6/22 武村豊先生の戦争の実体験のお話の後、各教室から各学年それぞれの平和に対する思いを平和メッセージとして発表し、黙祷☆全員で♪沖縄から平和の歌♪を歌いました。最後に校長講話も聞き、感想をまとめることで戦争と平和について考える機会になりました。私達の命は、先祖が一生懸命に生きたからこそ今に繋がっています。二度と戦争が起こらないよう自他ともに命をお互いに大事にして平和に過ごしていきたいと思います。

